問 教育委員会管理課
☎476-1111(411・412)

■ 親子でメディアの使い方を話し合いましょう

大崎町教育委員会では、これまで大崎町PTA連絡協議会、大崎町校長会とともに「子どもを守るための携帯電話・スマートフォン・通信機器等に関する指導方針」を各学校やPTAに示し、「児童生徒に携帯電話・スマートフォン・通信機器等を所持させない」「やむを得ず所持させる場合は、各家庭の責任において安全について親子で確認し使用する」という方針について、保護者に指導・啓発しています。

しかし最近、携帯電話やスマートフォン等を利用したネットトラブルによる事件が大きな社会問題となっています。そこで、この度、町内の小中学生を対象に緊急調査を行いました。その結果、次のことが主な実態として分かりました。

番号	調　査　内　容	小学生	中学生
1	自分専用の携帯電話またはスマートフォンをもっている。	20.1%	44.5%
2	家にはインターネットを利用するときのきまりがない。	27.2%	38.6%
3	平日に、家でインターネットを１時間以上している。	18.1%	50.1%
4	平日５時間以上インターネットをしている	８人	７人

ネット依存に詳しい心療内科医の増田彰則先生は、先日開催された大崎町学校保健会講演会の中で「子どもの脳の発達は、子どもを取り巻く情報環境が大きく影響する」「子どもの脳が傷つかずゆっくり成熟していく環境を整備することは、われわれ大人の責任である」ことを強く訴えていらっしゃいました。

子どもたちの心身の健やかな成長のため、インターネットをはじめとしたメディアの使い方を、各家庭でもう一度見直してみましょう。

なお、冒頭で紹介した指導方針は、本町のホームページにも掲載しています。ぜひご覧ください。

僕の夢 私の夢

『いのちの大切さを伝えられる助産師に』

No.39　持留小学校　６年　比良（ひら）　淑来（きよら）

私の将来の夢は、助産師になることだ。助産師になりたいと思ったのは、赤ちゃんがかわいくて好きだということもあったが、コウノドリというまん画を読んで、助産師のことを知ったからだ。

助産師の仕事は、お産の手助けをすることだ。生まれてくる赤ちゃんを最初に抱くことができるなんて、すばらしい仕事だと思った。助産師について調べてみると、にん婦の健康管理や乳児指導など、出産の時だけでなく、出産前から出産後まで、母子の健康を守るのが助産師の仕事だということが分かった。そんなにたくさんのことができるだろうかと少し不安になった。また、赤ちゃんがおなかの中でなくなって生まれたり、出産後になくなったりすることもあると知り、こわくなった。

助産師になり出産に立ち会うということは、赤ちゃんの誕生だけではなく、死にも立ち会わなければいけないこともあるということだ。その覚ごを持たなくては、助産師にはなれないと思った。

わたしが読んだ本の中に、自分が生きているのは、ずっと前から「いのちのバトン」が受けつがれてきたからだと書かれていた。わたしは、助産師になって「いのちのバトン」をわたすお手伝いをしたいと思う。そして、子どもたちにいのちの大切さを伝えられる助産師になりたい。

熱い鼓動　風は南から
燃ゆる感動 かごしま国体